

*QR Newsletter*

## 第四紀通信

Vol. 2 No.4, 1995



第四紀学会会長 相馬寛吉先生は、去る1995年6月26日心筋梗塞のため逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

Vol.2 No.4

July 15, 1995

弔辞	---- 2
学会からのお知らせ (1995年大会第4報)	---- 3
国際集会のお知らせ (IGCPproject367)	---- 9
研究連絡委員会報告	---11
学会報告	---15

## 弔辞

謹んでこの弔辞を日本第四紀学会会長、相馬寛吉先生の御霊前に捧げます。

この度、思いもかけない先生の急なご逝去の悲報に接し、私どもは未だに信じられない気持ちであります。生あるものは必ず滅する、とは申せ、先生のご逝去は学会にとってあまりにも大きな損失であり、会員一同にとって言い様のない悲しみであります。

先生は、植物生態学を専攻され、花粉化石を用いて中生代から新生代に至る被子植物の進化と植生変遷を研究していらっしゃいました。ことに、第四紀の古環境と植生変遷の研究に一生を捧げられ、数々の輝かしい学問のご業績をあげてこられました。わが日本第四紀学会においては、先生は創立以来の会員として40年の長きにわたって活躍され、植物化石、花粉分析研究者の中心として第四紀学の進歩に尽くされました。そして、昭和54年より通算14年間、本会評議員として尽力され、平成3年より4年まで副会長、続けて平成5年より会長を歴任されたほか会誌および各種出版物の編集委員を永年にわたってお勤めになり、文字どおり本会の大黒柱として、その発展と後進の育成に努力を傾けてこられました。私共の記憶に新しいのは、先の阪神淡路大震災の折りの事であります。この震災では、地震直後から、地震そのもの、あるいは活断層、災害、山崩れ、地殻変動など多様な問題について、第四紀研究者が調査活動を進めておりますが、先生はこの第四紀研究の社会的責任を果たすためにお考えになって、震災後直ちに調査の組織化を目指して、速報シンポジウムをご計画になり、震災直後の混乱が続く中で第四紀学会主宰の大規模なシンポジウムを成功に導かれました。

先生は温容で、学会に於けるご指導でも決して強いお言葉で「かくあるべし」とおっしゃるようなことはありませんでした。しかし、慈愛あふれる柔らかなお言葉の中に、学問の本来の目的を見通した骨太い思想が貫かれ、学会の進むべき方向を見据えた揺るぎない指導力が隠されておりました。相馬先生の急逝により、私共は闇夜に灯火を失ったような前途の不安を感じております。

先生は会長としての業半ばにして病魔に倒れられました。先生なき後、私共日本第四紀学会会員一同は、力を合わせ、先生のご遺志を継いで、第四紀学の発展とその社会的責任を果たすために、全力を尽くすことをここ先生の御霊前にお誓い申し上げます。これが、先生のあげられた数々の学問のご業績をさらに発展させ、学会のために尽くされた先生のご努力を生かす、唯一の道であると信じております。

私共の素晴らしい指導者であり、学会発展の恩人であられる相馬先生、どうか安らかにとわの眠りにおつき下さいますよう、そして今後、我々の活動を天国からお見守りくださるようお願いして、お別れの言葉と致します。

平成7年6月29日

日本第四紀学会 副会長 鎮西清高

# 日本第四紀学会 1995年大会 (総会・研究発表会) [第4報]

## 1. 日 程

- 1995年8月25日(金) 10:30~16:59 一般研究発表 [終了後:評議員会]  
 8月26日(土) 9:00~16:51 一般研究発表・総会 [終了後:懇親会]  
 8月27日(日) 9:00~17:30 講演会・シンポジウム  
 8月28日(月)・29日(火) 巡 検

\*本年の大会は1会場で行われます。一般研究発表の時間は10分です(1鈴7分, 2鈴9分, 終鈴10分)。  
 \*発表者の大会のスライド枚数(OHPを含む)は、一般研究発表が8枚以内、シンポジウム話題提供が20枚以内です。それぞれのスライドには、講演番号、映写順序、氏名を記入し、映写ホルダーの挿入状態で右上余白に赤丸をつけて下さい。スライドは、発表の30分前までに会場入口のスライド受付係に提出して下さい。  
 \*OHPはご自分で操作して下さい。  
 \*ポスターセッションには、横90cm、縦180cmのパネルが1件につき1枚が用意されています。ポスターの展示は、8月25日(金)11時から26日(土)16時30分まで可能です。なお、26日(土)の14時44分から15時20分の間(コーヒープレイク)は、質問等を受けられるようにポスターセッションの会場に、できる限る居て下さい。

## 2. 会 場 (案内図参照)

新潟大学 教養部校舎 (〒950-21 新潟市五十嵐2の町8050)  
 大会準備委員長:青木 滋 (新潟大学積雪地域災害研究センター)

[交通案内]

- ・新潟駅から「新大西門」まで新潟交通バスで約40~50分
- ・新潟駅からJR越後線「新潟大学前駅」あるいは「内野駅」まで約20分、さらに徒歩約15~20分

## 3. 日本第四紀学会1995年度総会 8月26日(土) 11:00~12:00

- 1)1994年度事業報告
- 2)1994年度決算報告・会計監査報告
- 3)1995年度事業計画および予算案
- 4)その他

## 4. 懇親会

日 時:8月26日(土)17:30~19:30

会 場:新潟大学 生協食堂

会 費:5,000円(一般), 4,000円(学生・大学院生)

事前申し込み制とします。懇親会参加の希望を7月31日までに葉書あるいはFAXで下記準備委員会宛、申し込んでください。

## 5. 巡 検

案内者:鈴木郁夫・長谷川美行(新潟大)・高野武男(新潟大・非)

テーマ:「新潟の古自然環境」

地形図:20万分の1 新潟, 長岡, 高田, 富山(巡検地域全体)

2万5千分の1 長岡, 栃尾, 片貝, 塚野山, 小千谷, 新井, 梶屋敷, 越後大野, 糸魚川, 小滝, 潟町

日 程:8月28日(月)~29日(火) 1泊2日(バス使用)

28日 JR新潟駅前発→長岡市立科学博物館→雲峠・小栗田原・越路原(信濃川流域の河成段丘面の変形と砂礫層)→不動沢(向斜構造露頭)→七日市(小波長の褶曲構造)→馬高遺跡→長岡インター→糸魚川(宿泊)

29日 ホテル糸魚川発→フォッサマグナ ミュージアム→長者ヶ原遺跡→板倉町猿供養寺(地すべり資料館)→潟町砂丘(古砂丘砂層)→JR新潟駅前

集 合:8月28日(月) 8時15分 <場所>JR新潟駅南口

宿泊場所:糸魚川市 ホテル糸魚川

解 散:8月29日(火) JR新潟駅前 16時30分の予定

費 用:概算17,000円(宿泊費+昼食代+バス費用)

募集定員:45名

## 学会からのお知らせ

申込方法：必要事項（氏名・所属・性別・連絡先住所と電話，FAX，あればE-mail・すでに定員オーバーの場合のキャンセル待ちの希望の有無）を記入した申込書（適宜作成ください）と，予約金5,000円（郵便為替）と一緒に，下記準備委員会まで7月31日までに申し込みください。

### 6. 夜間小集会

25日夜あるいは27日夜，小集会開催を希望される方は，集会名称，責任者名，連絡先，およその参加人数，スライドあるいはOHPの希望の有無を7月末日までに下記準備委員会宛にお申し込みください。

〒950-21 新潟市五十嵐2の町8050 新潟大学理学部地質科学教室気付  
日本第四紀学会1995年大会準備委員会 事務局 小林巖雄 (TEL 025-262-6114)  
立石雅昭 (TEL 025-262-6187) (E-mail sedta9-4@sc.niigata-u.ac.jp)  
FAX 025-262-6194 (教室共有)

### 7. プログラム

#### 講演会「第四紀学と地震防災」：8月27日(日) 午前

- L1 9:00～9:25 1995年新潟県北部地震について  
.....大木靖衛・渡辺直喜・徐輝竜・鈴木幸治(新潟大)
- L2 9:25～10:05 兵庫県南部地震による阪神地域の被害と伏在断層  
.....遠藤秀典・渡辺史郎・牧野雅彦・村田泰章・渡辺和明(地質調査所)
- L3 10:05～10:45 兵庫県南部地震による震害と地盤構造  
.....三田村宗樹(大阪市大)・大阪市立大学阪神大震災学術調査団

#### シンポジウム「平野の自然と人類史—越後平野を例として—」8月27日(日) 午後

- オーガナイザー：小林巖雄(新潟大)・小野昭(都立大)・立石雅昭(新潟大)・柴崎達雄(新潟大)
- 12:30～12:40 シンポジウム趣旨説明.....シンポジウム世話人
- (1) 平野の形成
- S1 12:50～13:15 越後平野地下の第四系.....小林巖雄(新潟大)
- S2 13:15～13:40 新潟砂丘の形成史.....田中久夫(東京学館新潟高)・新潟古砂丘研究グループ  
(13:40～13:50 質疑)
- (2) 平野と人の関係史
- S3 13:50～14:15 越後平野における旧石器～縄文時代の遺跡の立地とその変遷  
.....小熊博史(長岡市立科学博物館)
- S4 14:15～14:40 越後平野における弥生時代～中世の遺跡の立地とその変遷  
.....山本 肇(新潟県企画課)
- (3) 平野の水害と河川改修
- S5 15:05～15:30 越後平野の治水と河川開発史.....大熊 孝(新潟大)
- S6 15:30～15:55 亀田郷—水への挑戦—.....五十嵐太郎(新潟大)
- (4) 平野の地下資源と地盤
- S7 16:05～16:30 新潟市周辺の地盤沈下の経緯について.....百武松児
- (5) 平野の将来
- S8 16:30～16:55 平野の自然・生活.....青木 滋(新潟大)  
16:55～17:30 総合討論

#### 一般研究発表 8月25日(金) 午前

- 1 10:30～10:40 東シベリア，北極海周辺の永久凍土“エドマ”.....長岡大輔(北海道大・院)・西条 潔(宮城教育大)・福田正己(北海道大)・中村俊夫(名古屋大)
- 2 10:40～10:50 東南チベット・雲南の最終氷期の氷河拡大範囲とELAs.....岩田修二(都立大)
- 3 10:56～11:06 狩場山東部のハイマツとブナの移住と中山峠に再びやって来たトウヒ属  
.....星野フサ(札幌静修高)・中村俊夫(名古屋大)
- 4 11:06～11:16 北海道南西部における後氷期の植生変遷.....滝谷美香(北海道立林業試験場)

- 5 11:22~11:32 苗場山湿原の堆積物と花粉分析  
 .....関口千穂・嶋田 繁(明治大・院)・叶内敦子・杉原重夫(明治大)
- 6 11:32~11:42 福井県, 中池見湿原堆積物の花粉分析からみた最終間氷期以降の植生変遷  
 .....宮本真二(都立大・院)・安田喜憲・北川浩之(国際日本文化研究センター)
- 7 11:42~11:52 画像解析による炭素片分析法—Macintosh用画像処理分析ソフトNIH Image  
 を用いて—.....高原 光(京都府大)

## 8月25日(金) 午後

- 8 13:00~13:10 閉鎖系堆積物の定量的把握による最終氷期以降の乾湿変動の解明—山形県, 川  
 樋盆地の例—...小岩直人(東北大・院)・宮城豊彦(東北学院大)・竹中 純
- 9 13:10~13:20 岐阜県揖斐郡谷汲村, 最終氷期から現在までの湖沼堆積物における珪藻分析  
 —珪藻化石から見た, 火山灰降下と古気候の変化が湿地・湖沼環境に及ぼす  
 影響—.....加 三千宣(大阪市大)・後藤敏一(近畿大)
- 10 13:20~13:30 珪藻化石を用いた古環境の定量的解析の試み—Diatom Based Transfer  
 Function法の紹介とその古塩分復元への応用—.....鹿島 薫(九州大)
- 11 13:39~13:49 千葉県野田市座生沼における完新世の古環境.....増渕和夫・上西登志子  
 (川崎市青少年科学館)・宮崎 等(野田市役所)・杉原重夫(明治大)
- 12 13:49~13:59 古代の池「恵曇陂」の発掘と自然環境の復元(予報)  
 ...高安克巳・竹広文明・大西郁夫・立見博俊・梅木信宏・一原千恵(島根大)・  
 松本岩雄・佐伯徳哉・野々村安浩(島根県古代文化センター)
- 13 14:05~14:15 狭山池の堆積物.....吉川周作・三田村宗樹・里口保文・内山 高・Edy  
 Sunardi・ 槻木玲美(大阪市大)・中村俊夫(名古屋大)・市川秀之(大阪  
 狭山市教委)・橋本定樹(関大一高)・山本岩雄(穂高北小)・田中里志(京  
 都教育大)・山崎博史(琵琶湖博)・佐藤隆春(三国丘高定)
- 14 14:15~14:25 大阪府南部, 狭山池堆積物の珪藻群集—鎌倉時代以降の狭山池の水域環境変遷  
 .....槻木玲美(大阪市大)・後藤敏一(近畿大)
- 15 14:31~14:41 関東平野中央部加須低地における完新世の地形発達  
 .....江口誠一(大阪市大)・村田泰輔(埼玉大)
- 16 14:41~14:51 北海道北部, 大沼周辺地域における完新世後半の沖積低地の形成  
 .....大平明夫・海津正倫(名古屋大)
- 17 15:15~15:25 いくつかの湖沼の過去1万年間の堆積速度の変遷について  
 .....伊藤久敏(電力中央研究所)
- 18 15:25~15:35 東京湾東部沿岸地域の沖積層.....石綿しげ子(基礎地盤コンサルタンツ)
- 19 15:41~15:51 房総半島南部のイベント堆積物と段丘形成との関係  
 .....藤原 治(動燃東濃地科学センター)・増田富士雄(大阪大)・  
 酒井哲弥(大阪大)・斉藤 晃((株)大和地質研究所)
- 20 15:51~16:01 房総半島夷隅川下流における Isotope Stage 3 の海成段丘  
 ...菊地隆男・桑原拓一郎・鈴木毅彦(都立大)・奥野 充・中村俊夫(名古屋大)
- 21 16:01~16:11 琉球列島, 久米島における後期完新世の海面変動—沖縄島との比較—  
 .....河名俊男(琉球大)
- 22 16:20~16:30  $\alpha$ スペクトル $^{230}\text{Th}/^{234}\text{U}$ 年代測定法の喜界島産サンゴ試料への適用  
 .....宮森陽子・村瀬 隆・大村明雄・佐々木圭一(金沢大)
- 23 16:30~16:40 礫性サンゴ化石の $^{230}\text{Th}/^{234}\text{U}$ 年代測定からみた酸素同位体ステージ5e高海  
 面期の継続期間について.....大村明雄(金沢大)
- 24 16:40~16:50 黒姫火山岩類中の溶岩の磁化方位  
 .....北爪智啓(群馬県立自然史博物館(仮称)準備室)・野尻湖古地磁気グループ

## 8月26日(土) 午前

- 25 9:00~ 9:10 縄文時代晩期末の愛知県伊川津貝塚出土人骨の形質について  
 .....藤田 尚(聖マリアンナ医大)・鈴木隆雄(東京都  
 老人研)・史 常德(東京大)・西本豊弘(歴博)

## 学会からのお知らせ

- 26 9:10～9:20 新潟県津南地域における旧石器時代遺跡の立地条件・・・中村由克(野尻湖博物館)
- 27 9:26～9:36 遺跡からみた濃尾平野の液状化履歴 服部俊之(愛知県埋蔵文化財センター)
- 28 9:36～9:46 1993年北海道南西沖地震による海底地殻変動・・・・・・岡野 肇(高知大)・  
藤岡換太郎(海洋科学技術センター)・DK94-06Leg1乗船研究者一同
- 29 9:52～10:02 兵庫県南部地震による地盤の液状化  
・・・・・・陶野郁雄(国立環境研)・遠藤邦彦・寺井和雪・角田明郷(日本大)
- 30 10:02～10:12 1995年兵庫県南部地震による被害分布と地形地質環境・・吉岡敏和・栗田泰夫・  
・・・・・・宮地良典・寒川 明・水野清秀・  
下川浩一・井村隆介・奥村晃史・杉山雄一・佃 栄吉・  
木村克己(地質調査所)・松山紀香(大阪土質試験所)
- 31 10:18～10:28 兵庫県南部地震による六甲山地東麓における断層の変位  
・・・・・・波田重熙(神戸大)・平野昌繁(大阪市大)
- 32 10:28～10:38 新潟県北部の地震の先行現象と月岡断層  
・・・・・・河内一男(新潟県立教育センター)・中川正道(新潟地方気象台)・  
森田 朗(豊栄地区理科教育センター)・芋川敏之(新津市立理科教育センター)

(11:00～12:00 総会)

(12:00～13:00 昼食)

## 8月26日(土) 午後

- 33 13:00～13:10 東北日本弧内帯, 出羽丘陵の形成過程・・・・・・大月義徳(東北大)
- 34 13:10～13:20 ネバル亜ヒマラヤ, チトワン盆地北縁における段丘形成と地殻変動  
・・・・・・木村和雄(東北大・院)
- 35 13:26～13:36 タリム盆地における巨大砂丘(d r a a)の発達過程・・・・印牧もとこ(日本大)
- 36 13:36～13:46 バカヤ火山の最終ステージにおける噴火活動の年代(予報)  
・・・・・・北村 繁(東北大・院)
- 37 13:46～13:56 示標テフラの活用による黒ボク土の生成開始時期をさぐる  
ー日本とニュージーランドの累積火山灰土壌の事例からー  
・・・・・・細野 衛(東京自然史研究機構)・佐瀬 隆(岩手県一戸高)
- 38 14:05～14:15 栃木県喜連川丘陵のテフラ層序・・鈴木毅彦(都立大)・吉永秀一郎(森林総研)・  
木村純一・岩崎 誠・真鍋健一(福島大)
- 39 14:15～14:25 関東ローム層中に含まれる微細石英の堆積量の変動ー北関東喜連川丘陵芳井の  
例ー・・・・・・吉永秀一郎(森林総研)・木村純一(福島大)・  
鈴木毅彦(都立大)・真鍋健一(福島大)
- 40 14:25～14:35 ロームに残された気候変化の記録: 帯磁率からの検討  
・・・・・・木村純一・岩崎 誠・真鍋健一(福島大)・  
吉永秀一郎(森林総研)・鈴木毅彦(都立大)
- 41 15:20～15:30 磐梯火山の地形発達史・・・・・・小荒井 衛(環境庁)
- 42 15:30～15:40 上総層群Kd38火山灰層について・・・・里口保文・吉川周作・長橋良隆(大阪市大)
- 43 15:46～15:56 加治丘陵西部の飯能層と関東山地の接峰面について・・・・加賀美英雄(城西大)
- 44 15:56～16:06 埼玉県入間川流域の下部更新統仏子層の昆虫化石群集と古環境  
・・・・・・林 成多(新潟大・院)
- 45 16:12～16:22 東海層群大泉湖の湖水域縮小期・・・・・・松葉千年
- 46 16:22～16:32 古琵琶湖層群高島累層白土谷層の層序学的再検討  
・・・・・・山崎博史(琵琶湖博準備室)・吉川周作(大阪市大)・  
此松昌彦(大阪市大)・三矢信昭(朽木西小)
- 47 16:32～16:42 古琵琶湖層群堅田累層からのヒシ属化石の産出状況と古環境  
・・・・・・此松昌彦(大阪市大)・田中 淳(大阪工業大)・  
田中里志(京都教育大)・山崎博史(琵琶湖博準備室)

ポスターセッション

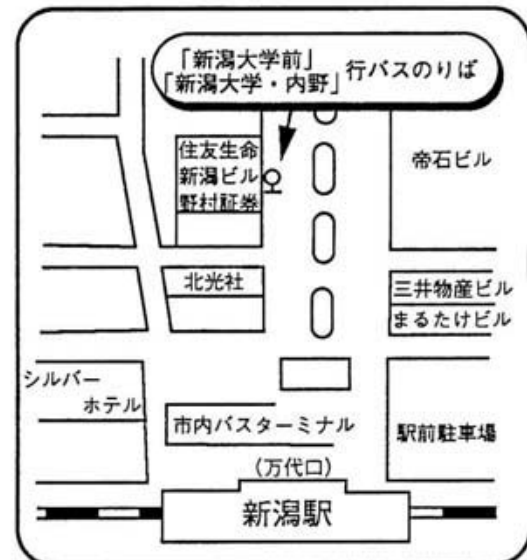
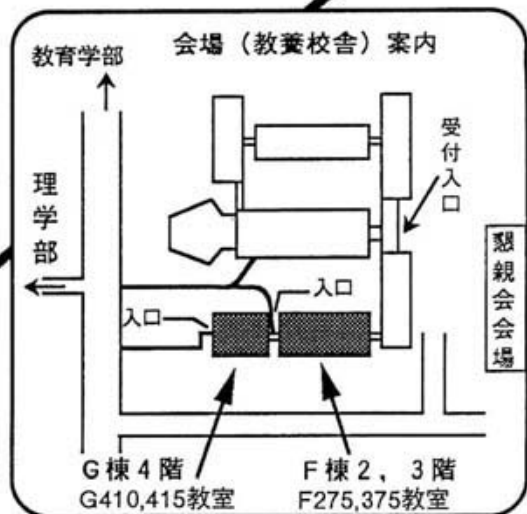
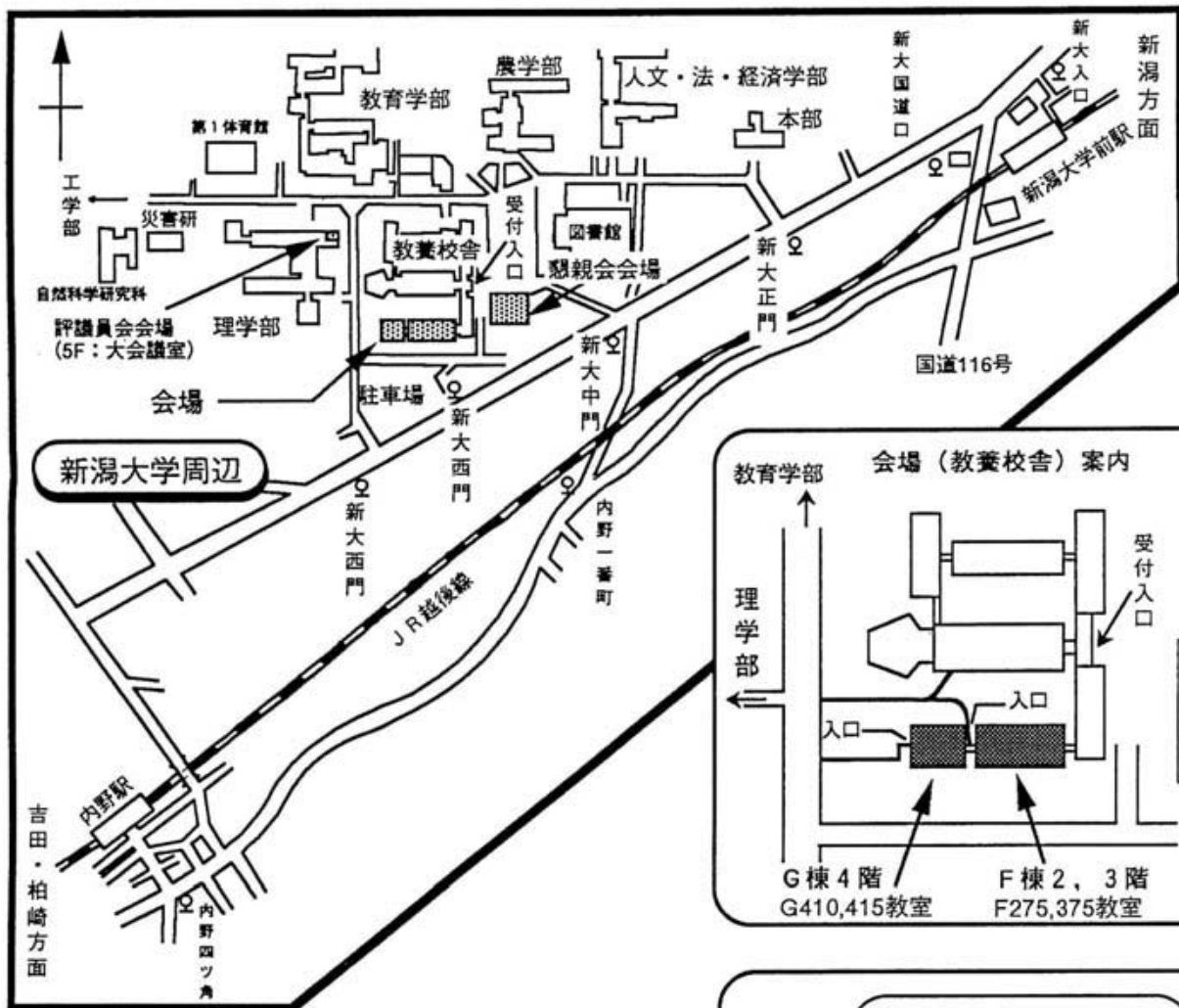
- P 1 新潟県下の阿蘇4層準の広域テフラ  
.....渡辺秀男(長岡市立大高)・ト部厚志(香川大)
- P 2 佐渡加茂湖周辺の上部更新統.....国中層団体研究グループ
- P 3 新潟平野北部地域の表層地質と古環境.....鴨井幸彦((株)興和)・小林巖雄・  
Nguyen Lap Van(新潟大)・藤田英忠(敬和学園高校)・坂井陽一(小千谷高)
- P 4 新潟県三島郡越路町塚野山の魚沼層にみられる足跡化石とその古環境  
.....澁海川足跡化石団体研究グループ
- P 5 新潟県長岡市西部の魚沼層に記録された前期更新世末の海水準変動  
.....長岡ニュータウン魚沼層堆積環境研究グループ
- P 6 新津丘陵西縁の層序と層相.....新潟平野東縁団体研究グループ
- P 7 新潟県、青海カルストの第四紀地質学的重要性・長谷川美行・小林巖雄(新潟大)
- P 8 1995年兵庫県南部地震の地殻変動と断層モデル.....多田 堯(国土地理院)
- P 9 1995年兵庫県南部地震による地盤の揺れと地変・菊山浩喜・横山俊治(川崎地質)
- P10 淡路島・野島断層地表変位のデジタルマッピング  
.....奥村晃史(地質調査所)・John Hamilton(U.S.Geological Survey)
- P11 自然熱蛍光を利用した風成塵堆積物の石英の識別方法  
.....鷹澤好博・渡辺友東子・伴 かおり(北教大函館)・橋本哲夫(新潟大)
- P12 北海道南部に分布する火山灰土の鉱物組成.....山縣耕太郎(上越教育大)
- P13 奥羽山地筑森山の雪田土壌からみた中世温暖期の気候環境  
.....大丸裕武・池田重人(森林総合研究所)
- P14 東京低地東部の3000m級反射断面.....杉山雄一・遠藤秀典(地質調査所)
- P15 三重県北部の鮮新-更新統奄芸層群の堆積環境  
.....上田哲郎(新潟大)・多度団体研究グループ
- P16 島根県東部の完新世環境変遷と低湿地遺跡  
.....中村唯史・徳岡隆夫・大西郁夫・三瓶良和・高安克己・竹広文明・  
会下和宏(島根大)・西尾克己(島根県埋文センター)・渡辺正巳(川崎地質)
- P17 雲仙普賢岳噴火に伴う火山灰堆積物の特性.....磯 望(西南学院大)・遠藤邦彦  
(日本大)・陶野郁雄(環境研)・酒井宗寿・林 伸幸・掛川奈央子(日本大)・  
神村郁子(大阪土質)・佐伯陽子・天本 悟・赤城純子・藤井理恵(西南学院大)
- P18 サンギラン出土ジャワ原人下顎骨の年代学的研究とその意義  
.....近藤 恵(東京大)・松浦秀治(お茶の水大)・  
F. アジス(バンドン地質研究開発センター)
- P19 炉跡土壌の特徴.....渡辺栄次(国立名工研)

☆総会に出席できない方は委任状を下記幹事長あてにお送り下さい。

コピー(官製葉書に貼付でも可)でも、同様の文面でも結構です。

<p style="font-size: 1.2em; margin: 0;">委 任 状</p> <p style="text-align: right; margin: 0;">1995年 月 日</p> <p style="margin: 0;">日本第四紀学会会長殿</p> <p style="text-align: center; margin: 0;">氏名 _____</p> <p style="margin: 0;">私は議長(または, _____ 氏)を代理人と定め、 1995年度日本第四紀学会総会における一切の議決権を委任いたします</p>
---

送付先 XXXXXXXXXX 上杉 陽(幹事長)あて



## 交通

新潟空港着の場合：新潟交通バスで新潟駅へ（駅まで約30分）。新潟駅にてJRあるいはバスに乗り換え。

新潟駅着の場合：

1. JR越後線の内野・吉田方面に乗り換えをし、内野駅または新潟大学前で下車（新潟大学までは徒歩約15～20分）。
2. 新潟駅前発の新潟交通バス（「新潟大学前」または「新潟大学・内野」行き）に乗り（右図参照）、「新大西門（しんだいにしもん）」で下車する。新潟駅から新潟大学までは約40～50分。



**■IGCP project367 (Late Quaternary Coastal Records of Rapid Change : Application to present and Future Conditions. Shorttitle ; Late Quaternary Coastal Records of Rapid Change) についてのお知らせ**

太田陽子 (専修大学文学部地理)

1994年から上記の新しいプロジェクトが発足しました。これは長期にわたって続いていた一連の第四紀海岸環境の変遷に関するプロジェクトを受けて発足したもので、1998年まで実施されず、第1回の会合は昨年スコットランドで行われ、第2回が本年の11月にチリで行われます。

本プロジェクトのおもな目的は、1) 海岸地域の第四紀後期における急速な変化を記載し、説明すること、2) 第四紀後期における地域的または世界的な短時間の海岸での変化を記載する資料を用意し、これと現在または将来の現象とのかかわりを追求すること、3) 上記の現象を世界的に比較するためのデータバンクを作成すること、などです。第1回の会合に日本から出席者がいなかった関係で、本プロジェクトに関する公告がおくれたことをお詫びするとともに、本プロジェクトへの参加をよびかける次第です。このプロジェクトに参加を希望される方は、別紙の様式(1)に御記入の上、プロジェクトの代表者(別紙に宛先あり)および当面の国内の連絡者 太田陽子(〒214-80, 専修大学文学部地理, Fax044-911-1231)に御送付ください。本年中に日本のワーキンググループを組織して、研究の体制、研究内容を討議していきたいと存じます。

なお、チリの会議は1995年11月19~26日にアントファガスタで実施されます。期日は迫っておりますが今でも参加可能ですので、希望者は別紙様式(2)を至急送付(宛先は別紙にあり)してください。

<様式1>

IGCP PROJECI 367---MEMBERSHIP FORM FOR DIRECTORY

Return to: David B. Scott, Centre for Marine Geology, Dalhousie University,  
Halifax, NS B3H 3J5, Canada. Ph: 902 494 3604; Fax: 902 494 3877.

Name, Address,

Phone: FAX: E-Mail: TELEX:

Special Interests:

Geographic Locations of Work:

<様式2>

PRELIENARY REGISTRATION FORM:

(IGCP 367 1995 Annual Meedng, Antofigasta, Chili, 19-26 November 1995)

Return by 15 February 1995 to: Luc Ortlieb, ORTOM, Univ. de Antofagasta / Univ. de  
Chile, Casilla 1190, Antofagasta, Chile

Fax: 011 56 55 28 12 94

Name, Initials, Title:

Full Mailing Address:

Phone, Fax & E- mnil

I shall attend the Antofagasta IGCP 367 Meeting:

I shall not attend, but wish to be on the mailing list

I will submit an abstract for oral or poster presentation on the following topic:

I wish to take part in the main Field Trip

(Mejillones & Antofagasta Iquique, 23 25 Nov)

I would be interested in the second Field Trip (Coquimbo, 26 28 Nov 1995).

Required minimum number of participants: 15

## ■第16期第3回議事録

日時：平成7年3月10日(金)13:30~16:50

場所：日本学術会議第4部会議室(6階)

出席者：上杉 陽、太田陽子、大場忠道、小池裕子、立石雅昭、松島義章、米倉伸之(7名)  
欠席者：新藤静夫、池田安隆、熊井久雄、酒井潤一、相馬寛吉、野上道男(6名)

前回議事録案を確認の上、承認した。なお前回議事録にあるINQUA分担金については、1991~92年度は3850SF(スイスフラン)、93年度は4249SF、94年度は4650SFが支払われていること、1991年の北京大会で日本の分担金はカテゴリーI V(3850SF)からV(5500SF)に値上げすることが国際評議会で決定されているが、その額に達していないことが報告された。

### 報告

(1) 1995年1月17日兵庫県南部地震調査速報会(日本第四紀学会と第四紀研究連絡委員会の共催)を2月18日に日本大学で開催した。共催について時間的余裕がなかったため、事後承認となったことが米倉委員長から報告された。速報会の内容についてはポストプリントが準備されている。

(2) INQUAベルリン大会関係についてセカンドサーキュラーの配付が今年になってから行われ、アブストラクトの締切も3月15日に延期されたこと、登録・巡検参加申込の締切が4月30日であること、大会に展示の申込をしたことなどが米倉委員長から報告された。

(3) 前期研連が主催(共催)した「古地震」シンポジウムの成果は4月中に古今書院から刊行される予定であること、「太平洋地域の自然環境変遷」シンポジウムの成果は「地学雑誌」103巻7号(1994年12月)に刊行されたことが太田委員から報告された。

### 審議

(1) INQUAベルリン大会への日本からの活動報告について

1) 日本第四紀学会と協力して、5つの研究委員会の活動報告、「第四紀研究」の英文目次、最近の国内のシンポジウム、日本の海外調査の成果などについてまとめることとした。A5サイズのカメラレダイの原稿を5月末日までに集め、日本第四紀学会に印刷費、郵送費などを負担してもらうことを決めた。

2) 展示については、阪神・淡路大震災に関連するポスターを準備することとし、池田安隆、太田陽子、遠藤邦彦、陶野郁雄にその準備委員

を依頼することとした。また日本の活断層図(英文)や最終間氷期の海岸線図なども展示することとした。

(2) INQUA役員などの推薦について  
前回の議論にもとづき、INQUA執行部に副会長候補者を日本から推薦することとし、複数の候補者について議論したうえ、投票の結果、太田陽子委員を推薦することとした。また名誉会員として渡辺直径氏(元日本第四紀学会会長)を推薦することとした。

(3) 今期の活動方針について  
前回の議論につづいて今期の活動方針を検討し、以下のことを決めた。

1) 国際第四紀学連合活動要覧の改訂版を準備して、刊行すること。INQAベルリン大会で会則などの改訂が予定されているので、それを受けて準備することとし、太田・熊井・小池3委員を担当者とすることを決めた。

2) 年代測定小委員会(仮称)について  
日本における第四紀研究に関連する年代測定施設を拡充するために、現状の把握と問題点を明らかにすることが急務と考えられるので、上杉・大場・米倉3委員を中心として、次期の日本第四紀学会大会(8月・新潟大学)までに小委員会を作る準備をすることとした。

3) 大学における第四紀研究の教育・研究の現状について  
大学において第四紀研究に関連した教育・研究体制がどのようになっているかについて、関係者にアンケートするなどをして、現状を把握することとした。とくに、学部レベルにおける第四紀関連の講義名、講義の概要、担当者、大学院レベルにおける研究室(研究組織)、研究テーマ、研究者などについて調査することとし、立石・小池・大場・野上4委員を担当者とすることを決めた。それに関連して、前期からの引き継ぎとして、科学研究費補助金の第四紀研究関係のリストの作成を太田・小池委員が準備することになっていることが確認された。

4) シンポジウムの開催について  
阪神・淡路大震災に関連するシンポジウムを早急に開催する必要があると述べられ、日本学術会議の特別委員会が設置されるとの情報があるので、第四紀研連としてシンポジウムの開催を提案することとした。また1996年度は日本第四紀学会創立40周年にあたるので、特別シンポジウムの開催について検討することを学会側に提案することとした。

5) 地域における第四紀研究の推進について

日本学術会議九州沖縄地区会議での地域交流会に第四紀研究者が関係していることなどが紹介され、地域での活動を強化すること、博物館活動との関係などを推進することが検討された。

6) 国際的な活動の推進について  
INQUAの研究委員会の活動のほかに、IGBP研究計画の推進においてもアジア・太平洋地域における地域研究の重要性と日本からの積極的な参加が要請されていることなどから、アジア・太平洋地域における第四紀研究の国際協力のための枠組み作りについて検討することとした。例として、古海洋学分野における「東アジア海洋地質学シンポジウム」などとの関係を持つことの可能性などが議論された。また、日本の第四紀研究の研究成果を英文の報告・データベースなどとして国際的に利用できる形にし

て公表することの重要性が述べられ、そのための方策を検討することとした。

(4) その他

1) UNESCO-IUGS共同研究”Earth Process in Global Change” : Climates of the Past (CLIP)が米倉委員長から紹介され、日本からの参加が要請された。

2) 太田委員から、淡路島野島地震断層の保存について、研連からも要望書を北淡町に提出して欲しいむねの意見がだされた。研連として対外的な意見を述べる際には手続が必要なので、その点を確認の上、日本第四紀学会とも協議の上、対応することとした。

次回の予定

1995年6月9日(金) 13時30分から17時まで  
日本学術会議7部会議室にて

## ■北海道大学大学院地球環境科学研究科教官の公募について

1. 公募人員： 教授 1名
2. 所属： 地圏環境科学専攻地球環境変遷学講座
3. 専門分野： 本講座では、比較的新しい地質時代の地球環境変遷の研究に今後とも力を注ぎたいと考えていますので、新第三紀・第四紀の古環境復元を目指している方で、古環境学または古海洋学の発展に在職教官と協力して取り組める方が望まれます。また、本研究科大学院学生ばかりでなく理学部地球科学科学生の教育・研究指導および全学教育にも携わって頂きます。
4. 国籍・年齢： 特に問いません。
5. 提出書類： (1) 履歴書  
(2) 研究業績リスト(原著論文、総説、その他)  
(3) 主要論文の別刷またはコピー(5編から10編程度)  
(4) これまでの研究概要と今後の抱負(2000字程度)  
(5) 国内外の学会および関連機関における活動
6. 応募期限： 平成7年8月31日(木) 必着
7. 着任時期： 平成8年4月1日
8. 書類送付先： 〒060札幌市北区北10条西5丁目  
北海道大学大学院地球環境科学研究科地圏環境科学専攻長 大場忠道宛  
(応募書類と朱筆し、簡易書留で送付のこと)
9. 地球環境変遷学講座の職員と専門：  
教授：中村耕二(1996年3月定年退職、本公募)  
大場忠道(180と13Cによる古環境復元)  
助教授：長谷川四郎(底生有孔虫による古環境復元)  
南川雅男(有機物の15Nと13Cによる古環境復元)  
助手：村山雅史(14Cによる古環境復元)
10. 問い合わせ先： 大場忠道 Tel=011-706-2233; Fax: 011-747-9780

### ■東京大学気候システム研究センター非常勤研究員の公募について

1. 公募の対象 非常勤研究員 1名  
研究課題「地球温暖化に伴う大陸スケールの気候変動の予測及び評価」に関する研究を行う。気候モデリング、気候データ解析、衛星リモートセンシングなど上記の研究課題に関する研究を意欲的に行う人を求めています。
2. 雇用条件
  - (1) 雇用期間 着任から2年間
  - (2) 給与 月約29万円(交通費込)
3. 着任時期 平成7年9月15日
4. 応募資格
  - (1) 博士の学位を有する者、又は平成7年9月学位取得見込の者
  - (2) 採用時に35歳未満の者
5. 提出書類
  - (1) 履歴書(高校入学以降の学歴及び職歴)
  - (2) 研究業績リスト
  - (3) 主要論文の別刷またはコピー(3篇以内、博士論文要旨も可)
  - (4) 本人の能力について判断できる専門家1-2名の推薦状
  - (5) 志望の動機と今後の研究計画(A4版1枚程度)
6. 応募の締切 平成7年8月15日
7. 書類送付先、問い合わせ先  
〒153東京都目黒区駒場4-6-1  
東京大学気候システム研究センター  
研究協力掛  
電話: 03-5453-3959(研究面) FAX: 03-5453-3964  
03-5453-3953(事務)  
\* 応募書類の封筒には「非常勤研究員応募」と朱書きし、簡易書留で郵送のこと。

### ■九州大学大学院比較社会文化研究科 教官の公募について

1. 採用人員・職名 地域資料情報講座 助手 1名
2. 研究分野及び研究内容 資料情報  
( 鉱物科学・系統分類学・人類学などの自然史に関する研究、特に、自然資料を対象にした調査・分析・測定・情報化に関する研究)
3. 応募資格
  - (1) 大学院博士課程修了者(必要単位取得者)、又はこれと同等の研究業績を有する者
  - (2) 平成7年4月1日現在32歳未満である者
4. 任期 原則的として6年とする。
5. 採用予定日 平成7年10月1日
6. 提出書類
  - (1) 履歴書(市販の履歴書用紙使用、写真貼付、学歴は高校卒以降を記入のこと)
  - (2) 研究業績目録(別紙様式により作成。印刷中、投稿中のものはその旨明記)
  - (3) 研究計画(採用後の研究計画を2000字程度にまとめること)
  - (4) 研究業績中公刊されたものの抜刷り又はコピー各1部  
( 公刊されたものがない場合は修士論文等未公刊論文のコピー各1部)
  - (5) 本人についての所見を伺える方の氏名と連絡先
  - (6) 健康診断書1通(開業医でも可。3か月以内のもの)
7. 提出期限 平成7年7月31日(月)必着
8. 提出先 〒810 福岡市中央区六本松4-2-1  
九州大学大学院比較社会文化研究科長 志垣嘉夫
9. 問い合わせ先 九州大学大学院比較社会文化研究科地域資料情報講座 小池裕子  
TEL & FAX 092-716-6892

## 第2回アジア学術会議開催される

平成7年3月 日本学術会議広報委員会

今回の日本学術会議だよりでは、新規に学術研究総合調査費などを計上した平成7年度予算及び2月に開催された第2回アジア学術会議の概要についてお知らせします。

### 平成7年度日本学術会議予算

平成7年度政府予算(案)は、平成6年12月25日に閣議決定されましたが、日本学術会議関係の予算決定額は、11億2,339万4千円でした。その概要については次のとおりです。

#### 【主な経費の概要】

##### (1) 学術研究総合調査

150万円(平成7年度新規)

科学研究者の研究環境の改善と研究意欲の向上に関して、国内において意識調査及び実情調査を行う

とともに、外国においても実情調査を行い、結果を整理・分析し、日本学術会議において問題解決のための有効な方策について提言するもの。

##### (2) アジア学術会議の開催

220万円(昨年度同額)

アジア学術会議は、アジア地域の各国を代表する科学者が一堂に会し、アジア地域において学術の果たす役割、学術交流の在り方等について討議することにより、相互理解を深め信頼関係を築くとともに、アジア地域ひいては世界の学術の発展に資するために実施するもの。

平成7年度日本学術会議関係予算決定額表

(単位：千円)

事 項	予算決定額	備 考
日本学術会議の運営に必要な経費	1,123,394	対前年度比 93.5%
1 審 議 関 係 費	292,820	重要課題の特別検討, 移転準備委員会, IGBPシンポジウム, 公開講演会, 学術研究総合調査(新規)等
2 国際学術交流関係費	208,750	
(1) 国際分担金	69,505	
(2) 国際会議国内開催	66,211	7年度開催(神経生理学, 健康教育, ロボット, 憲法, 真空物理学, 獣医学の6会議) 8年度開催(理論・応用力学, 国際関係, 熱帯医学, 地域学会, 化学熱力学, 畜産学の6会議)
(3) 代 表 派 遣	44,006	
(4) 二 国 間 交 流	6,823	
(5) アジア学術会議の開催	22,205	
3 会 員 推 薦 関 係 費	20,000	
4 その他の事務費等	601,824	一般事務処理費等

### 第2回アジア学術会議～科学者フォーラム～の概要について

日本学術会議は、アジア地域の各国科学者の代表を東京に招き、本年2月6日(月)から9日(木)までの4日間、三田共用会議所(東京都港区)において第2回アジア学術会議～科学者フォーラム～を開催しました。

会議には、中国、インド、インドネシア、日本、大

韓民国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの10か国の学術推進機関(アカデミー等)から推薦された人文・社会科学系及び自然科学系の科学者20名が出席し(日本からは伊藤正男日本学術会議会長及び利谷信義副会長が出席)、「アジアにおける学術交流のための方策」をメインテーマとして活発な討議を行いました。

初日の6日には、タイのチュラボン王女殿下、イン

ドのメノン博士による特別講演が行われたほか、高岡総理府次長(内閣総理大臣あいさつ代読)、藤田学士院院長をはじめ、国会議員、関係学協会の方々約200名をお迎えし、開会式及び歓迎レセプションが開催されました。

翌7日からは、それぞれの国籍や専門分野を超えて、アジア地域における学術の振興という共通の目的の下、熱心な討議が行われました。

その結果は、次項議長サマリーとして取りまとめられ、9日に無事閉会しました。

開催に当たり御支援、御協力いただきました方々に厚くお礼申し上げます。

## 議長サマリー (要約・仮訳)

### 第2回アジア学術会議～科学者フォーラム～

1995年2月6日～9日、東京

1. 第1回アジア学術会議(1993年11月、ACSC)の提案に基づき、第2回アジア学術会議が日本学術会議の主催により、アジアの10カ国から20名の科学者を集めて開催された。参加国として新たにベトナムが加わり、暖かく迎えられた。開会式において、タイ王国のチュラポン王女殿下及びインドのメノン博士による「アジアにおける学術交流のための方策」をテーマとした講演が行われた。また、村山総理大臣及び藤田学士院院長から祝辞が送られた。
2. 前回の議長サマリーの諸原則を議論の出発点とし、最近の科学の動向、21世紀に向けた世界の状況を踏まえ、アジアの科学者の継続的かつ効率的な学術交流のためのテーマを巡って総合的な検討がなされた。
3. 討議の中で、参加者は、経験に基づくユニークで示唆に富むアイデアを紹介し、幅広い観点から意見を交換した。要点は次のとおりである。
  - (1) 科学分野における協力は、人々の「生活の質」の向上だけでなく、アジア地域における「持続可能な発展」も目的としなければならない。
  - (2) 環境破壊、人口爆発等の地球的課題への取組みに際し、人文・社会学者と自然科学者が密接に協力していくことが重要である。
  - (3) アジア地域においてとりわけ重要な「持続可能な発展」を確保し、国際的な共同研究を促進するために、人材育成が重要である。このための国際協力は、平等互惠の原則の下に推進されなければならない。
  - (4) 化学、農学、医学等の特定の分野において現在行われている、また、将来行われるであろういくつかの試み(「アジア化学推進機構」、「アジア応用システム分析研究所」、「アジア伝統医学推進機構」、「自然災害の緩和のための科学協力」)が地球的課題を解決するための方策として紹介された。また、「共生」という概念に関して議論があった。

4. 参加者はACSCにおける中長期的な研究目標として「持続可能な発展」を取り上げた。このテーマは、さらなる検討を通じて、より扱いやすいサブテーマへと細分化される必要がある。また、21世紀を見据えつつ、アジアの知の伝統を生かし、人文・社会科学及び自然科学の融合を図るという、新たな観点から研究を行っていくことも将来の目標である。

5. これらの問題を議論する場として、ACSCのあり方は大きな関心を集めた。

将来の展開としてACSCを恒久的な組織にすることの可能性についても議論があった。参加者は別紙に示された基本理念、目的及び活動に概ね同意し、各自、持ち帰って関係方面とさらに議論することとなった。

6. ACSCの目標を達成するため、参加者は努力を続けることに同意し、少なくとも新組織が確立するまでの間は日本学術会議によりACSCが毎年開催されること、また、将来的には日本以外でも開催されることが望まれた。なお、日本学術会議が新組織の事務局となり、また、各国は各々の窓口となる機関を決めるべきであるとされた。

### 新組織について

#### 1. 基本理念

- a. アジア共通の課題について審議、建議する組織
- b. アジアの知の伝統を踏まえ、人文・社会・自然科学の融合を図る組織
- c. アジア域内各国各地域に広く開かれ、他の国際学術団体とも連携を図る組織

#### 2. 目的

「持続可能な発展」と「生活の質」の向上を目指して国際学術協力を推進するため、人文・社会・自然各分野の科学者が国籍や専門を超えて意見、情報の交換を行う場となること。

#### 3. 活動

- a. 科学者に関する提案とそのフォローアップ
- b. 学術情報の収集・解析・普及
- c. アジアの学術界の連携強化
- d. 進行中の研究活動の評価・調整
- e. 総会の開催、シンポジウム・ワークショップの支援

## 日学双書の刊行案内

日本学術会議主催公開講演会の記録をもとに編集された次の日学双書が刊行されました。

### 日学双書No.22 「尊厳死の在り方」

(定価) 1,000円(消費税込み、送料240円)

※問い合わせ先

財団法人日本学術協力財団(〒106 港区西麻布3-24-2  
交通安全教育センタービル内 ☎03-3403-9788)

## ■ 評議員会議事録 (1994年度第2回)

日時： 1995年1月28日

場所： 東京大学理学部地理学教室

出席者：相馬寛吉(会長)、鎮西清高(副会長)、赤沢威、赤羽貞幸、池田安隆、上杉陽、大森昌衛、川辺孝幸、熊井久雄、熊木洋太、小泉武栄、齊藤亨治、坂上寛一、清水康守、杉山雄一、陶野郁雄、中村俊夫、那須孝悌、羽鳥謙三；委任状：16通 議長：小泉武栄

### 報告事項

#### 1. 庶務委員会

(1) 以下のシンポジウム・講演会等の協賛及び後援を行った：第9回「大学と科学」公開シンポジウム 海洋調査技術学会第6回研究発表会(1994.11.10-11) 第2回アジア学術会議—科学者フォーラム(1995.2.6-9) 海岸・沿岸域研究を考える：IGBP/LOICZ研究計画シンポジウム(1995年1.20-21) 昭和新生生成50周年記念国際ワークショップ(1995.10.12-15)

(2) 第16期学術会議第四紀研究連絡委員会委員下記の様に決定した：米倉伸之(委員長)、池田安隆、上杉陽、太田陽子、大場忠道、熊井久雄、小池裕子、酒井潤一、新藤静夫、相馬寛吉、立石雅昭、野上道夫、松島義章

(3) 会費長期滞納者(5年以上)に対して督促を行い、なお未納の場合には除籍処分とすることになった。

#### 2. 編集委員会

(1) 「第四紀研究」の印刷所を変更することを検討している。

(2) 「第四紀研究」へ海外(特にアジアの発展途上国)からの投稿を促すために、外国人に限って非会員による投稿を認めるか、あるいは海外会員会費を減額する等の措置を検討中である。

#### 3. 行事委員会

(1) 1994年度大会を東京都立大学において開催した。大会準備委員長：町田洋、日程：8月26日、一般研究発表、評議員会；8月27日、一般研究発表、総会、懇親会；8月28日(日) シンポジウム；8月29-30日 巡検

(2) 日本学術会議第四紀研究連絡委員会と共催で公開シンポジウム「日本列島における海岸環境の変遷—第四紀後半から現在まで—」を開催した。日程：11月25日(金) 会場：日本学術会議講堂 実行委員(小池一之、太田陽子、齊藤亨治)

(3) 日本第四紀学会講演会「中・下部更新統模式セクションに関するシンポジウム(房総半島の候補地について)」の開催を準備した。日程：1月28日(土) 会場：東京大学理学部2号館地理学教室講義室 発表者(熊井久雄、風岡修・房総第四

紀層序検討ワークショップ、会田信行・古野邦雄・香川淳・千葉県地質環境研究員、原雄・鈴木正男・楡井久、五十嵐厚夫、小林巖雄・大久保紀雄)

(5) 地球惑星関連学会合同大会において以下のシンポジウムを共催する： 日程：1995年3月28日、会場：日本大学文理学部 タイトル：「湖沼堆積物—地球環境変動の高精度検出計—」 コンビナー：遠藤邦彦・石渡良志・福沢仁之・井内美郎

(6) 1995年度大会の準備を行った(本号関連記事参照)。

#### 4. 会報委員会

「第四紀通信(QR Newsletter)」のVol.1, No.3, 4, 及びVol.2, No.1, 2を刊行した。

#### 5. 企画委員会

(1) 第四紀学会第1回講習会「変動地形の研究方法」を1994年8月17-19日に、岐阜県坂下町で開催した。

(2) 第四紀学会第2回講習会「古生態学研究方法論」を1995年3月18-19日に開催する。

#### 6. 第四紀重要露頭集企画編集委員会

発足以後3回の委員会を開き、以下の検討を行った。(1) 正式のタイトルを、「日本の火山灰—日本第四紀露頭集 その1」と改めた。(2) 委員長は遠藤邦彦氏となった。貝塚爽平委員は健康上の理由で委員を辞退された。若干名の新委員を補充する予定である。(3) 「その1」はA4版、400頁程度、頒布価格2000-3000円程度とする方針である。今後も企画を継続し、刊行すべきであるという点で意見の一致を見た。

### 審議事項

#### 1. 会則の改正について

幹事の任期に関する例外規定について、以下の改正案が提案された。

現行：「なお、幹事は合算して4期(8年)を越えて就任できない。なお、必要に応じて、会長推薦により、正会員の中から2名以内の幹事を増員することができる。」

改正案：「なお、評議員の互選による幹事の任期は合算して4期(8年)を越えることはできない。なお、会長は、必要に応じて、正会員の中から3名以内の幹事を評議員会に推薦することができる。」

この提案に対して、会長推薦幹事合算4期(8年)を越えて就任できることを明示的に表現せよとの意見があった。原案を修正の上、次回評議員会・総会に諮ることとなった。

#### 2. 第四紀学会論文賞について

1994年度第四紀学会論文賞選考委員として以下の5氏が会長から推薦され、評議員会の了承を得た。垣見俊弘(地質学部門)、松井健(土壌学部門)、大森昌衛(古生物学部門)、渡辺直経(人類学部門)、吉川虎雄(地理学部門)

なお、論文賞選考委員会は1995年6月までに受賞者の選考を行い、8月の評議員会及び総会において結果を報告する。

**3. 兵庫県南部地震調査速報会の開催について**  
1995年1月17日の兵庫県南部地震に関する以下のシンポジウムが提案され、承認された。タイトル：「1995年1月17日兵庫県南部地震調査速報会」、主催：日本第四紀学会・学術会議第四紀研究連絡委員会、日時：1995年2月18日、会場：日本大学文理学部、世話人：陶野郁雄・遠藤邦彦・池田安隆

### ■幹事会議事録

日時：1995年5月13日

場所：東京大学理学部地理学教室

出席者：上杉 陽、小池裕子、斉藤亨治、坂上寛一、杉山雄一、池田安隆、村上 聡（学会センター）

1. 1995-1996年度評議員・役員選挙のための選挙管理委員会が組織された。委員長：山崎晴雄、委員：石綿しげ子・宇根 寛・鈴木毅彦・松原彰子・由井将雄。
2. 地球惑星科学関連学会に正式参加することを、次回評議員会・総会に諮ることとなった。
3. 今春の地球惑星科学関連学会合同大会で行われたシンポジウム「湖沼堆積物—地球環境変動の高精度検出計—」の発表をもとに、「第四紀研究」で特集を組みたいとの申し入れが同シンポジウム世話人よりあった。この件は、編集委員会で検討することとなった。
4. INQUAの次期副会長候補者に太田陽子氏を、名誉会員候補者に渡辺直経氏をそれぞれ推薦することとなった旨、第四紀研連委員から報告があった。
5. 第四紀学会講習会（第2回）「古生態学研究方法論」は、1995年3月18-19日に千葉県で開催され、約40名の参加があった。次回は、tephrochronologyに関する講習会を企画中である。講師は鈴木毅彦氏（都立大学）を予定している。